令和7年度 園だより

こうきた 12月号

杉並区立高円寺北子供園

まねっこしながら大きくなぁれ…

園　長　川嶋　佳恵

冷たい風が吹き、枯葉が舞い散る季節になりました。登園時の保護者の皆様や子どもたちの格好は、ダウンジャケットやコートを身に付け、冬の格好になりつつありますが…高円寺北子供園での子どもたちは、薄着、半ズボン・7分丈ズボン・8分丈ズボンで園庭を駆け回ったり、縄跳びをしたり、鬼ごっこをしたり等元気いっぱいに過ごしています。子どもは、風の子ですね。

さて、12月は、くま組とぞう組の子ども会があります。くま組は「3時のおちゃにきてください」の劇、ぞう組は、「ブレーメンの音楽隊」と「10ぴきのかえるときどろろんやま」の劇をします。くま組は、お話の中で自分のやりたい役になり、ストーリーを楽しみながら動いていくことを楽しんでいます。ぞう組は、それぞれの役になり切りながら、場面に応じて動きを変化することを意識したり、大きな声でセリフを言ったり、出番ではないところでナレーターをしたり等たくさんの役割を担いながらとても意欲的に楽しんで取り組んでいるところです。当日を迎える少し前には、「子どもの子ども会」と称して、園児が見合う時間を作ります。ぞう組は、互いの劇を見て刺激を受けてさらに頑張ろうとする姿があるでしょう。そして、くま組の子どもたちは、年長児の動きや声の大きさ、お話の面白さに触れ、年長児の偉大さを感じ、憧れたり、同じようにやってみようとしたりします。うさぎ組の子どもたちは、くま組やぞう組の子どもたちがなり切った役の姿に魅力を感じ、まねをしながら気に入った役になり、ごっこ遊びを楽しんだりするのです。このように、自分よりも年長者に当たる幼児の姿に憧れをもち、同じようにまねをしてやってみようとする姿は他にもたくさんあります。最近でも繰り返し楽しんでいるくま組の円形エンドレスリレーがそうです。運動会でぞう組が取り組んだ円形リレーは、くま組の子どもたちにとって最大の憧れであり、ぞう組の子どもたちの真剣で、瞬足な走りは、格好良さの象徴のようです。年長が楽しんだ後の円形を少し小さくしたトラックで、年長がやっていたようにバトンを握りしめてリレー遊びをエンドレスで楽しんだり、時には、年中・年長の自主的に集まった子どもたち混合でエンドレスリレーを楽しんだりしています。格好良いフォームで走るお手本であるぞう組がそばにいるおかげで、くま組の子どもたちの走る姿勢も様になってきました。

このように憧れの存在やかっこいい姿をまねてみようとする姿は、運動会や子ども会に限らず、日常生活の中でもたくさん見られます。そして、それは、異年齢間だけでなく同じ学年の友達同士でも見られます。

友達とのトラブルがあり言い合っているA児とB児。通りかかった私が、「どうしてけんかになってしまったの？」と聞くと、「だって、ぼくがいいこと考えてかっこよくしたら、B ちゃんがまねっこするんだもん。何でもまねっこするんだよ。」との答え。私が、「まねっこされるのは、嫌なの？」と聞くと「うん。まねっこされるのは嫌。」と怒っています。B児に、「まねっこしたの？」と聞くと、「うん。」と元気に答えます。私は、「そうかぁ、Bちゃんは、Aちゃんのことが大好きだから同じようにしたいんだね。」と聞くとB児は大きくうなずきます。私は、A児に向かって「Aちゃん、まねされるってことはかっこいいってことなのよ。だって、かっこよくなかったら、まねっこしたくないでしょ。Aちゃんは、Bちゃんにとって憧れのかっこいいお友達なんだね。」というと、A児はまんざらでもない様子で、B児は、にこにこしながらその話を聞いていました。その後のある日、A児とB児、その他の幼児も含めて遊ぶ様子を見ていると、A児を中心に基地ごっこが展開され、積み木で場を構成したり、遊びに必要なものを作って身に付けたりして遊んでいました。A児は、遊びの仕切り役となって周りの子に言葉をかけることも多く、それだけ見ていると周りの子は A 児の思い通りに動いていて、自分の思いを言ったり自己主張をしたりすることができていないのでは？と思いましたが、そうではありませんでした。A児は、イメージが豊かで、遊びが面白く、仲間になった幼児が遊びに必要なものを苦労しながら作っているのを見ると、手を添えたり、体や腕の大きさに合わせて丁度よくなるよう補強したりして手伝い、その遊びの一員としてみんなが楽しく遊ぶための援助をさりげなく行っていました。A児は、自分の強さを出しすぎるところはありますが、思いやりがあり、とても気が利く頼りになる存在。B児が「大好きだからまねっこしたい。」と言っていた意味がよく分かりました。

幼児は、自分の周りにいる素敵な存在に憧れ、まねっこし、そのまねっこの中に学びを見出し、いずれは、自分の力にしていくのです。子どもたちのまねっこする力を引き出すべく憧れの存在、まねっこしたくなる存在がたくさんあるといいですね。子供園では、その存在が、担任の先生だったり、自分たちより少しお兄さんやお姉さんたちだったり、お友達だったりもします。おうちでは、お父さん、お母さんだったり、兄弟・姉妹の存在だったりします。このような自分の周りにいる人がやっていることや頑張っていることに憧れを感じ、今はまだできないことも、まねっこをしながら自ら学び、自ら大きくなっていくのだと思います。そう考えると、子どもたちの周りにいる年長者の人たちは、いつも自分が自分より年少者のお手本となり、年少者から憧れてもらえるような存在、魅力ある存在でいられるよう意識しながら生活することが、幼児の憧れながらワクワクしながら自ら成長していくことを支えることになりますね。私も園長としていつも魅力的な存在でいられるよう頑張ります。

≪今月の指導≫

★3歳児　うさぎ組

子どもたちは、どんぐりや落ち葉をつかって遊んだり、つくったりすることを楽しんでいます。周りの友達と同じことをしたいという思いもでてきて、一緒に動いたり、友達と同じものを身に付けたりすることを楽しんでいます。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

●自分の好きな遊びをしたり、面白そうなことをしている幼児と関わったりしながら遊ぶ楽しさを感じる。

●みんなと一緒にする活動の中で一緒に体を動かしたり、触れ合ったりする楽しさを感じる。

●園生活に必要なことで自分でできることは自分でしようとする。

少しずつ寒さに向かう時期ですが、戸外で体を動かす遊びもできるようにしていきます。また、１２月ならではの冬らしい製作にも取り組んでいきます

★4歳児　くま組

子ども会に向けての取り組みの中で、動物になりきって動くことや、みんなで一緒に言葉や踊りで表現することを楽しんできています。フルーツバスケットや氷鬼などルールのある遊びも楽しみながら、学級のみんなで遊ぶ楽しさを感じる場面も増えてきています。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

●自分の思いを動きや言葉で表現しながら、友達と関わって遊ぶことを楽しむ。

●見たことや感じたことを自分なりに表現することを楽しむ。

●生活に必要なことを分かって、自分から取り組もうとする。

今月も、寒さに負けずにたくさん体を動かして遊んでいきます。鬼遊びなどみんなで遊ぶ楽しさを感じられる活動や、縄跳びや鉄棒などの個人で挑戦していく遊びも取り入れて楽しめるようにしていきます。

★5歳児　ぞう組

子ども会に向けて、自分なりの表現をしたり、友達と考えを出し合いながら劇を作ったりしていくことを楽しんでいます。劇のナレーションや子ども会の係活動も子どもたちで行うことで、一人ひとりが力を発揮できるようにしています。

今月は、次のことを重点に指導していきます。

●自分のめあてに向かって工夫したり繰り返し挑戦したりする。

●友達とのつながりを楽しみながら、考えを出し合ったり力を合わせたりする。

●友達と声を掛け合って生活を進める。

子ども会で深まった友達とのつながりをもとに、リース作りやコマ回しなど個々の課題の中で、工夫してつくったり、自分なりのめあてに向かって繰り返し挑戦したりする楽しさを感じられるようにしていきます。